

包括連携協定に基づく

認知症に関する意識調査結果

今日と未来を、つなぐ。



日本生命



誰もか、誰かの、
たこからもの。

令和8年4月

島根県高齢者福祉課

地域包括ケア推進室

1 調査概要

調査目的

- ・ 県民の認知症に対する意識の現状把握
- ・ 調査結果を踏まえた認知症施策の検討

調査時期

令和7年4月1日～令和8年2月28日

調査方法

日本生命保険相互会社の社員による調査票の持参・回収
及び島根県Webモニターにより調査

調査対象

日本生命保険相互会社の顧客及び顧客候補、
島根県Webモニター

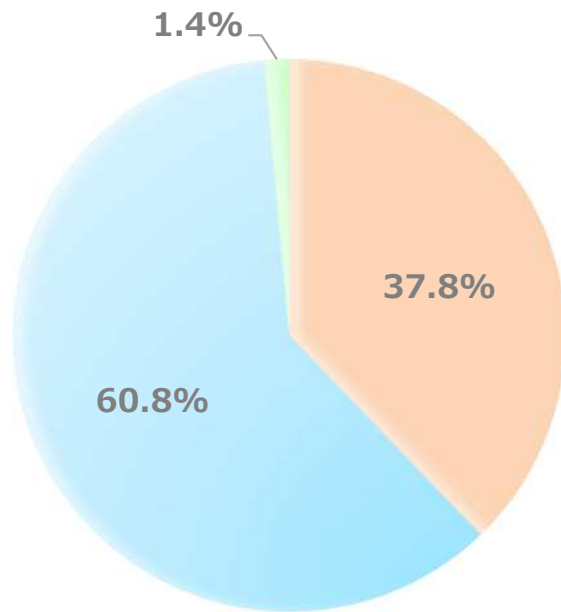
回答者数

706名

2 回答者（性別・年代）

性別

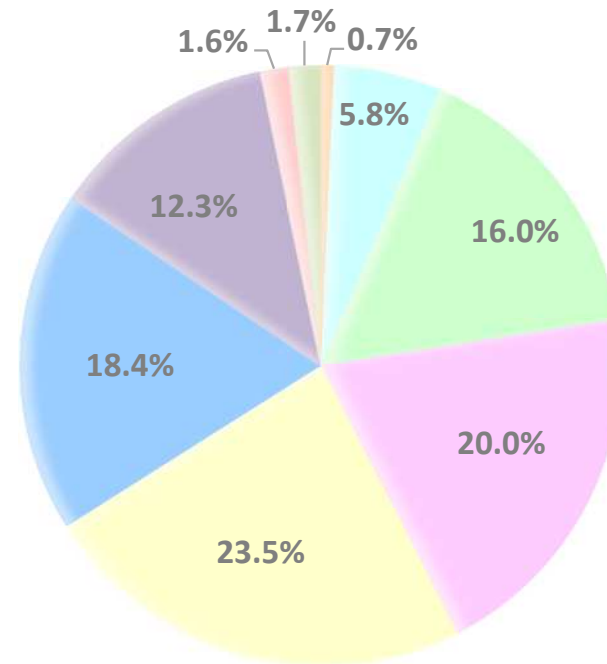
男性：267名
女性：429名
不明：10名



男 女 不明/その他

年代

10代以下：5名、20代：41名
30代：113名、40代：141名
50代：166名、60代：130名
70代：87名、80代：11名
不明：12名



10代以下 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代 不明

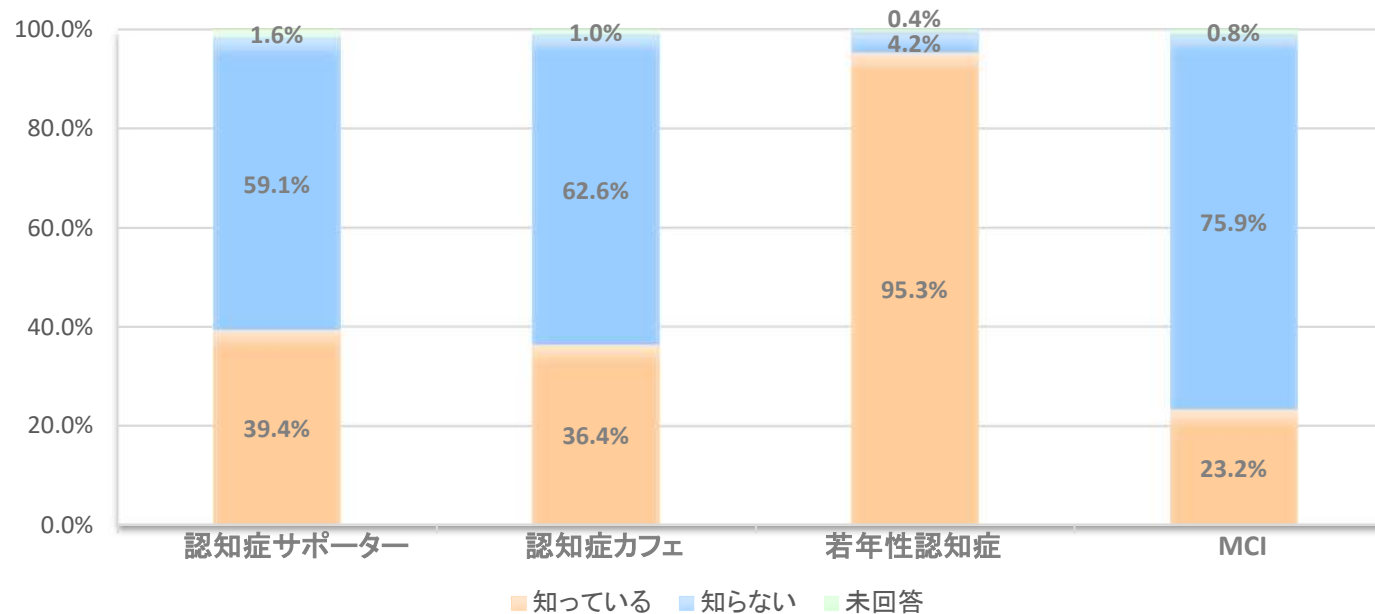
3 調査項目（1）

認知症に関する次の言葉はご存じですか？

「知っている」と答えた割合

（対前年比）

① 認知症サポーター	39.4%(+1.6%)
② 認知症カフェ（オレンジカフェ）	36.4%(+9.8%)
③ 若年性認知症	95.3%(+7.5%)
④ MCI	23.2%(+18.6%)

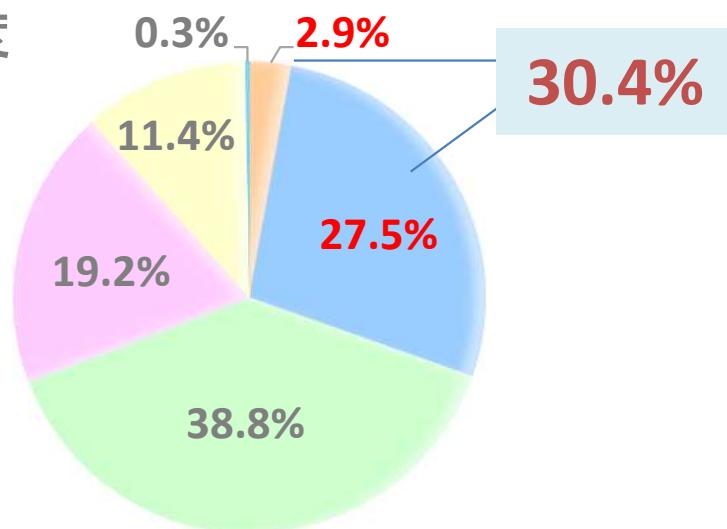


3 調査項目（2-1）

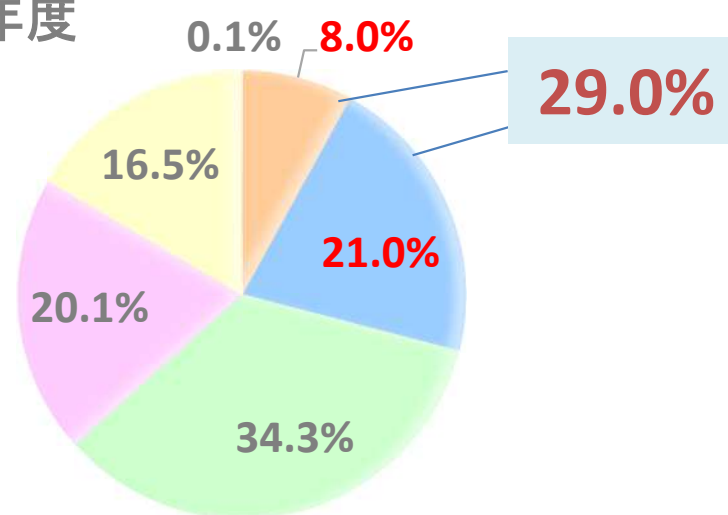
認知症に対して、どんなイメージを持っていますか？

	(対前年比)
<input type="checkbox"/> 自分で工夫しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる	2.9%(-5.1%)
<input type="checkbox"/> 医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる	27.5%(+6.5%)
<input type="checkbox"/> 身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートが必要となる	38.8%(+4.5%)
<input type="checkbox"/> 周りの人に迷惑をかけ、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる	19.2%(-0.9%)
<input type="checkbox"/> 症状が進行していき、何もできなくなってしまう	11.4%(-5.1%)
<input type="checkbox"/> 無回答	0.3%

R7年度



R6年度



自分で工夫しながら...
 医療・介護などの...
 介護施設に入って...
 周りの人に迷惑をかけ...
 症状が進行して...
 無回答

自分で工夫しながら...
 医療・介護などの...
 介護施設に入って...
 周りの人に迷惑をかけ...
 症状が進行して...
 無回答

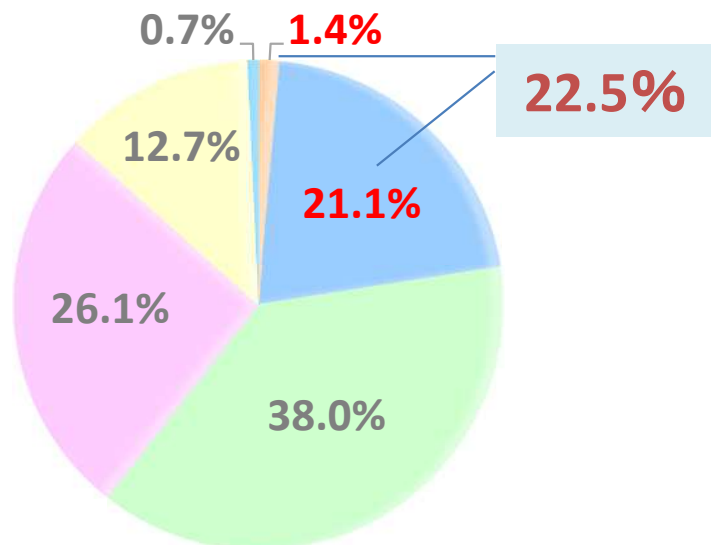
3 調査項目（2-2）

認知症に対して、どんなイメージを持っていますか？

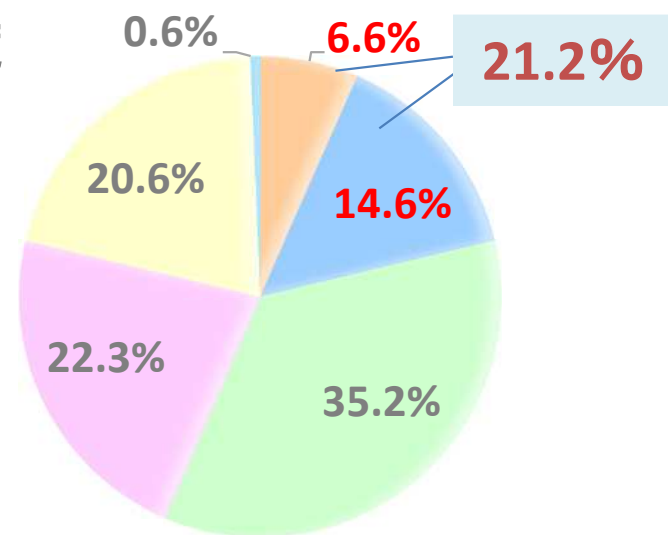
※ 認知症の人と接したことがないと答えた人のみ

	(対前年比)
<input type="checkbox"/> 自分で工夫しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる	1.4%(-5.2%)
<input type="checkbox"/> 医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる	21.1%(+6.5%)
<input type="checkbox"/> 身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートが必要となる	38.0%(+2.8%)
<input type="checkbox"/> 周りの人に迷惑をかけ、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる	26.1%(+3.8%)
<input type="checkbox"/> 症状が進行していき、何もできなくなってしまう	12.7%(-7.9%)
<input type="checkbox"/> 無回答	0.7%

R7年度



R6年度



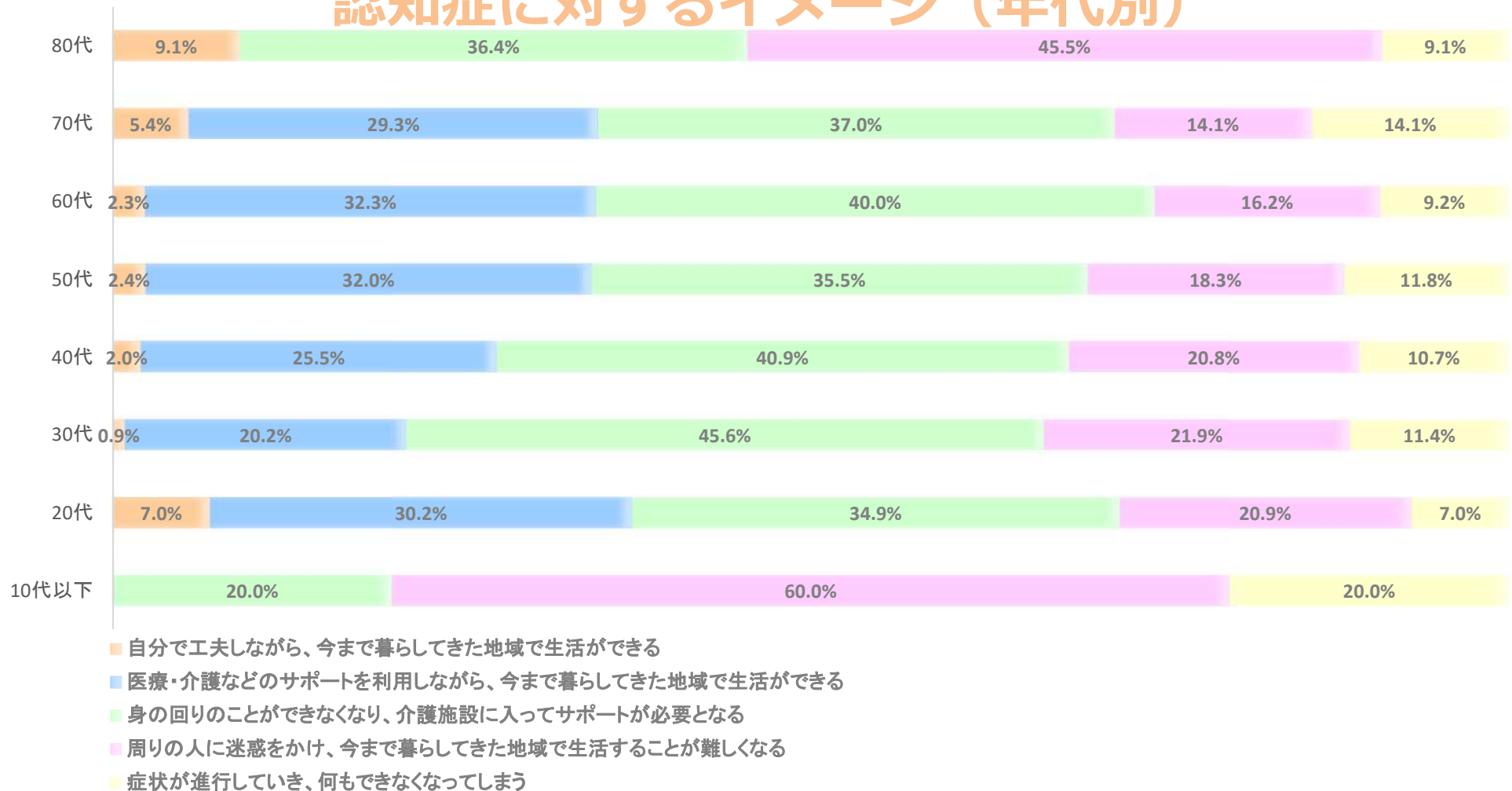
■ 自分で工夫しながら...
 ■ 医療・介護などの...
 ■ 介護施設に入って...
■ 周りの人に迷惑をかけ...
 ■ 症状が進行して...
 ■ 無回答

■ 自分で工夫しながら...
 ■ 医療・介護などの...
 ■ 介護施設に入って...
■ 周りの人に迷惑をかけ...
 ■ 症状が進行して...
 ■ 無回答

3 調査項目（2-3）

認知症に対して、どんなイメージを持っていますか？

認知症に対するイメージ（年代別）

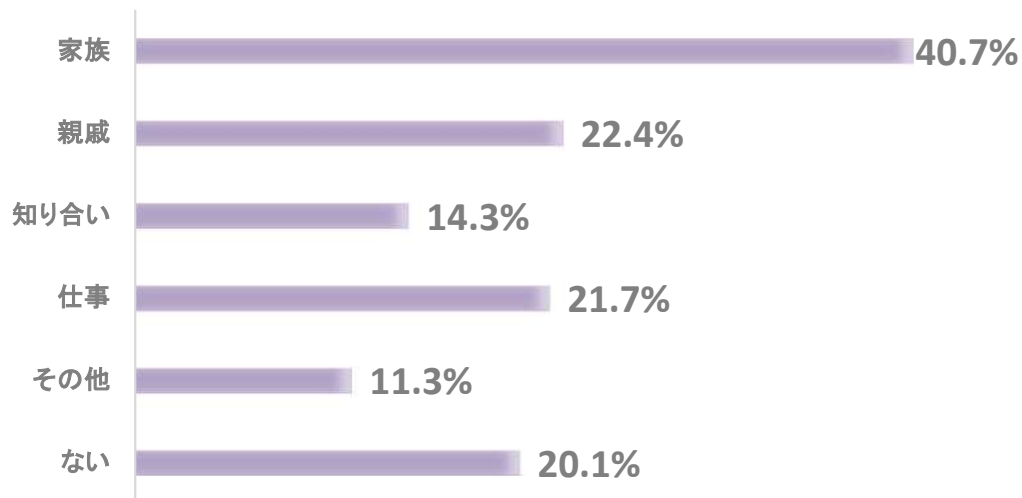


3 調査項目（3）

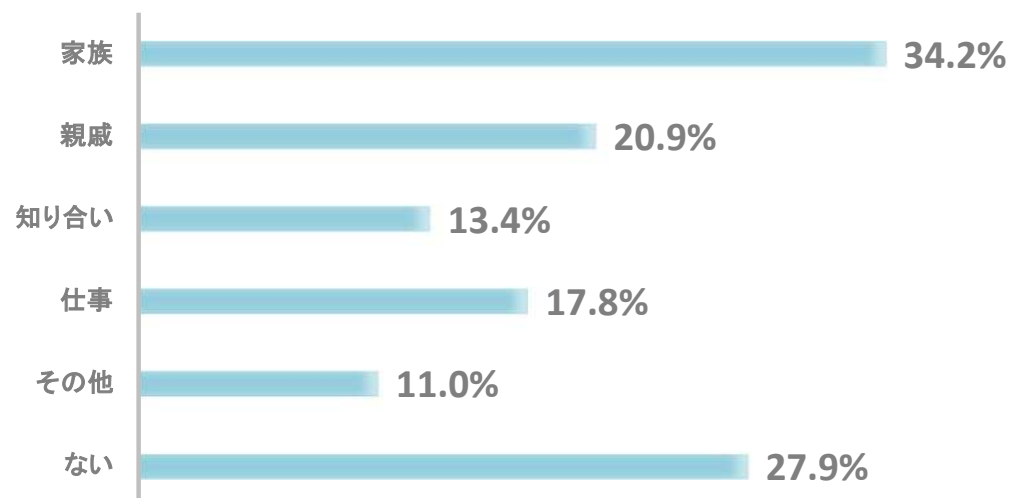
今までに認知症の人と接したことがありますか？ (複数回答可)

	(対前年比)
<input type="checkbox"/> 家族の中に認知症の人がいる(いた)	40.7%(+6.5%)
<input type="checkbox"/> 親戚の中に認知症の人がいる(いた)	22.4%(+1.5%)
<input type="checkbox"/> 知り合いや友人に認知症の人がいる(いた)	14.3%(+0.9%)
<input type="checkbox"/> 仕事を通じて接したことがある	21.7%(+3.9%)
<input type="checkbox"/> その他の場面で接したことがある	11.3%(+0.3%)
<input type="checkbox"/> 接したことがない	20.1%(-7.8%)

R7年度



R6年度

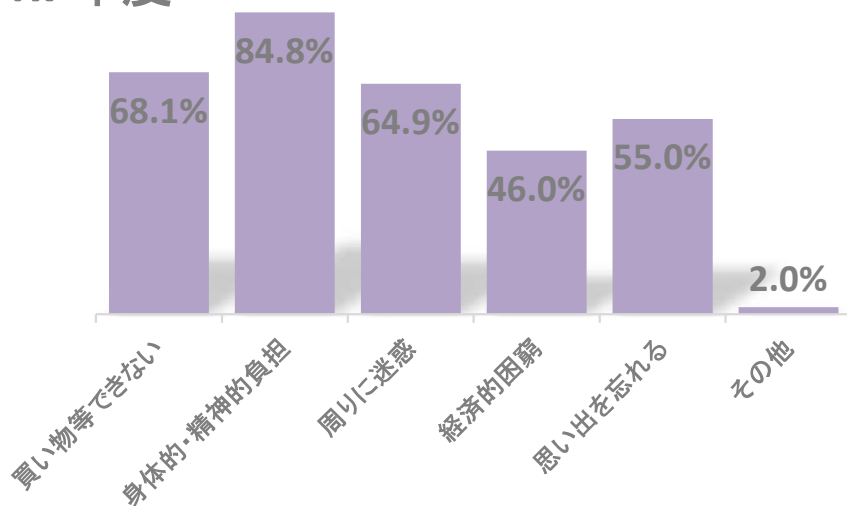


3 調査項目（4）

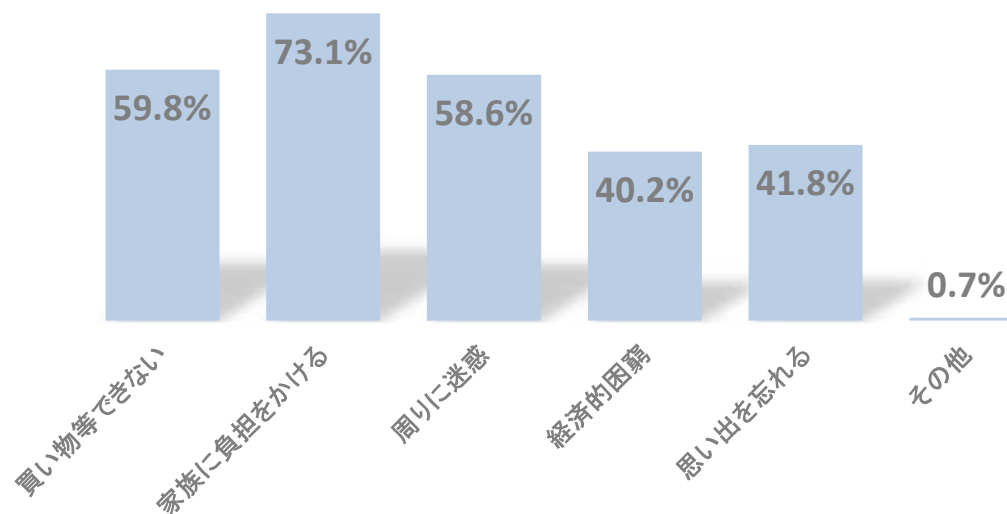
ご自身が認知症になったら、 どのようなことを不安に感じるとおもいますか？（複数回答可）

	(対前年比)
<input type="checkbox"/> 買い物や車の運転など、これまで出来ていたことができなくなるのではないかと	68.1%(+8.3%)
<input type="checkbox"/> 家族に身体的・精神的な負担をかけるのではないかと	84.8%(+11.7%)
<input type="checkbox"/> 家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないかと	64.9%(+6.3%)
<input type="checkbox"/> 経済的に苦しくなるのではないかと	46.0%(+5.8%)
<input type="checkbox"/> 家族や、大切な思い出を忘れてしまうのではないかと	55.0%(13.2%)
<input type="checkbox"/> その他	2.0%(+1.3%)

R7年度



R6年度

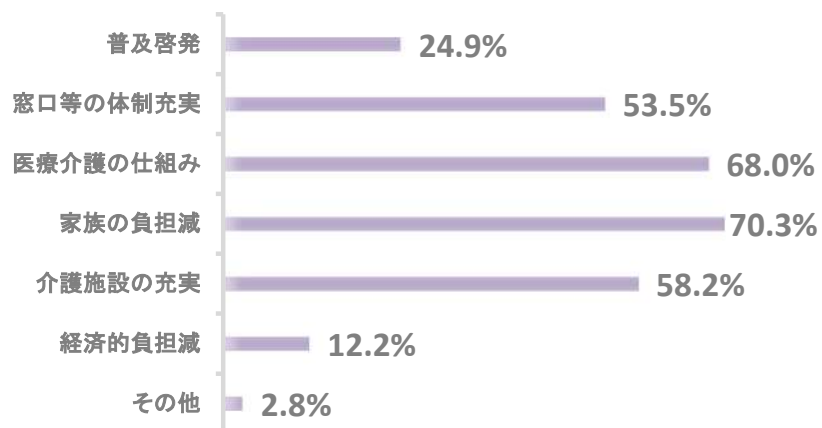


3 調査項目（5）

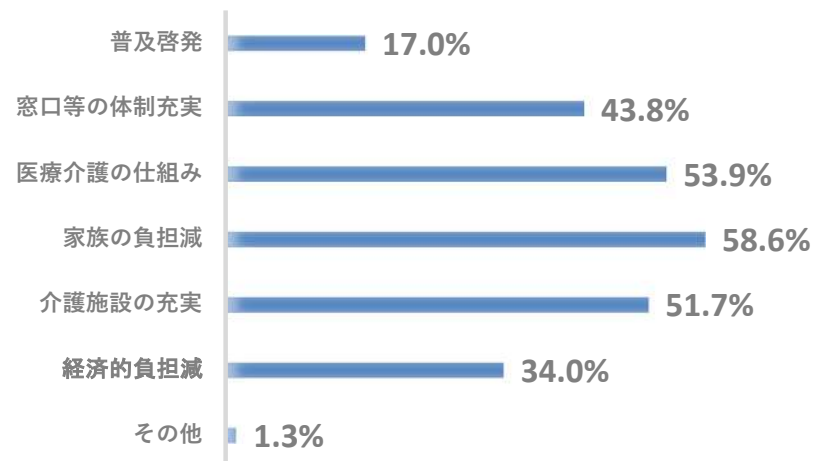
認知症について県や市町村がどのようなことに重点をおくべきだと思いますか？（複数回答可）

	(対前年比)
<input type="checkbox"/> 普及啓発や情報提供	24.9%(+7.9%)
<input type="checkbox"/> 相談窓口・体制の充実	53.5%(+9.7%)
<input type="checkbox"/> 早い段階から利用できる医療や介護などのしくみづくり	68.0%(+14.1%)
<input type="checkbox"/> 家族の身体的・精神的な負担を減らす取り組み	70.3%(+11.7%)
<input type="checkbox"/> 認知症の人が利用できる介護施設の充実	58.2%(+6.5%)
<input type="checkbox"/> 仕事と介護の両立支援を含めた経済的負担を減らす取組	12.2%(-21.8%)
<input type="checkbox"/> その他	2.8%(+1.5%)

R7年度



R6年度



3 調査項目 (6)

「新しい認知症観」という言葉をご存知ですか？

※ 島根県Webモニターのみ

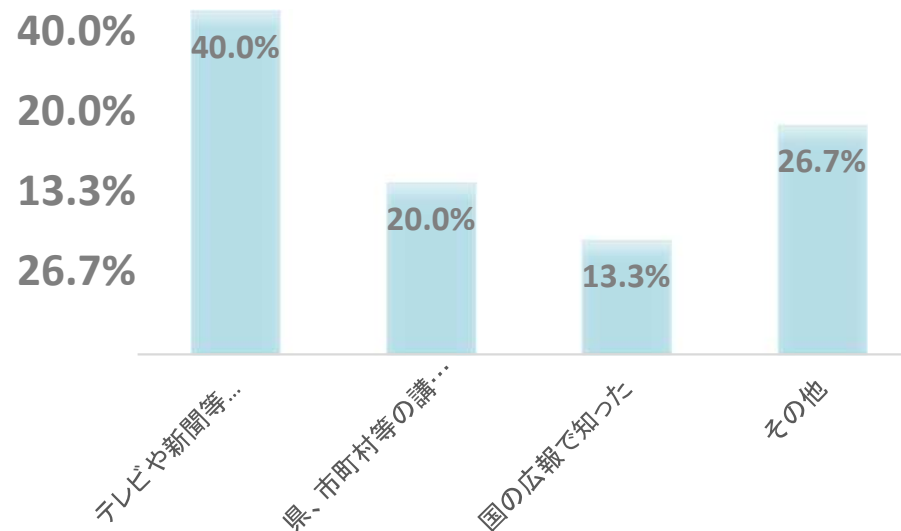
- 知っており、内容も理解している 3.1%
- 聞いたことはあるが、内容は知らない 13.1%
- 知らない・聞いたことがない 83.8%



「新しい認知症観」を知った経緯

※ 知っており、内容も理解していると回答した人のみ

- テレビや新聞等の報道で知った
- 県や市町村などの行政が主催する講演会等で知った
- 国の広報で知った
- その他



4 考察（まとめ）

- ◆ 認知症サポーター、認知症カフェ、若年性認知症の認知度は、前年度と比較して、それぞれ**+1.6%**、**+9.8%**、**+7.5%**と認知度は上がっている。また、MCIの認知度は23.2%とまだ低いものの、対前年比**+18.6%**と認知度は上がってきている。
- ◆ 認知症に対するイメージについては、「今まで暮らしてきた地域で生活ができる」と答えた割合は30.4%であり、前年度（29.0%）と同程度。全年代、認知症に対するマイナスイメージが大きい傾向にある。
- ◆ 認知症の人と接したことがないと答えた人に限ると、「今まで暮らしてきた地域で生活ができる」と答えた割合は22.5%と、前年度と同程度であった。

4 考察（まとめ）

- ◆ 「認知症になったら、どんなことが不安か」については、「家族に負担をかける」が最も多く84.8%（対前年比+11.7%）となった。その他には、孤独死を不安視する意見が挙がった。
- ◆ 「県や市町村が重点をおくべきこと」については、全体的に前年度割合より高く、その中でも「家族の身体的・精神的な負担を減らす取り組み」が最も多く、70.3%（対前年比+11.7%）であった。その他には、認知症に対する正しい知識、支援体制の周知という意見が挙がった。
- ◆ 「新しい認知症観」については、知らない方が83.8%と過半数を占めている。
- ◆ 本調査は今後も継続し、県民の認知症に対する意識の経年変化を把握する。

地域・医療・介護の連携

- ◆ **相談窓口体制の充実**
(メディアを活用した周知)
- ◆ **予防対策の充実**
(認知症に関連する病気や症状の予防対策の充実)
- ◆ **情報提供**
(市町村担当者はじめ関係者を対象とした研修会等の開催)

認知症に対する意識向上

- ◆ **普及啓発の促進**
(10代・20代の若年層、働き盛りへのアプローチ)
- ◆ **認知症サポーターの養成**
(認知症サポーター養成講座等を通し、認知症を正しく理解する人、認知症患者を支援する人を増やす)